

小羊が彼らの牧者となり

ヨハネの黙示録 7 : 9 - 17



司祭 ヨハネ 井田 泉

2014年10月26日

諸聖徒日

奈良基督教会にて

わたしたちは今日の礼拝を諸聖徒日の礼拝として守り、当教会関係逝去者を記念して祈りをささげます。先に天に召された方々を思いつつ、今日の使徒書、ヨハネの黙示録をとおして、天の情景を垣間見たい、天に響く声を聞きたいと思います。

時は、主イエスが地上の生涯を終えられてからおよそ 50 年あまりたった紀元 80 年から 90 年の頃です。ローマ帝国の迫害によって、ある教会の指導者ヨハネが地中海の島パトモスに閉じ込められ、苦難の日々を送っていました。洗礼者ヨハネ、主イエスの弟子ヨハネと区別して、長老ヨハネと呼んでいます。その長老ヨハネがある日曜日、祈っているうちに霊が天に引き上げられ、天上の礼拝を目撃することになりました。それがヨハネ黙示録の世界です。

「この後、わたしが見ていると、見よ、あらゆる国民、種族、民族、言葉の違う民の中から集まった、だれにも数えきれないほどの大群衆が、白い衣を身に着け、手になつめやしの枝を持ち、玉座の前と小羊の前に立って、大声でこう叫んだ。

『救いは、玉座に座っておられるわたしたちの神と、小羊とのものである。』」ヨハネの黙示録 7:9-10

長老ヨハネが目にしたのは、「あらゆる国民、種族、民族、言葉の違う民の中から集まった」大群衆でした。

ここを読むだけで、特定の民族、国の人々を侮蔑し憎しみの声を上げるヘイトスピーチがいかにも間違っているかを思います。

長老ヨハネが目にしたのは、その大群衆がそれぞれ白い衣を身に着けて、手になつめやしの枝を持ち、神を礼拝している光景でした。正面に玉座、神の御座が見え、そこに救い主イエス・キリストがおられるのがはっきりと感じられます。

キリストの臨在の事実と、それを感じる、経験すること。これが礼拝において決定的に大切です。

長老ヨハネは、この救い主イエス・キリストを宣べ伝えてきました。そのゆえに捕らえられてこの島に幽閉されているのです。しかし彼は今、初めて、自分が宣べ伝えてきたその救い主ご自身の前にいること、その輝きに照らされているのを感じます。この方が深く傷を受けて死なれたのは、わたしたちへの愛のゆえであった。この方が死者の中から復活されたのは、わたしたちを新しい命に生かすためであった。それがはっきりと感じられるのです。

ご自身をささげて傷つけられ、屠^{ほふ}られた神の小羊イエス・キリスト。その方の臨在の前に、自分が清められ、慰められるのを感じます。

そのとき、天の長老のひとりが長老ヨハネに語りかけました。ヨハネとともに、その最後の言葉をわたしたちも聞きましょう。

**「玉座の中央におられる小羊が彼らの牧者となり、
命の水の泉へ導き、
神が彼らの目から涙をことごとく、ぬぐわれる」7:14-17**

中央におられるのは小羊イエス・キリストです。天の中央、玉座におられるイエス・キリストは、やがて天のみならず地をも支配される。今は、地上では悪しき勢力が力を振るっているとしても、それは過ぎ去る。愛と正義と平和をもたらされるイエスが中心となり、やがてすべてとなられるのです。

救い主イエス・キリストは天の玉座にただ座っておられるだけではありません。立ち上がって行動される。それを天の長老は告げました。

第一に、イエス・キリストは「**彼らの牧者となられる**」。

立って群れを保護し、導き、養われるのです。弱った者たち、病んだ者たち、迫害され、傷つけられた者たちの牧者となられるのです。牧者となられる方は、羊の群れの弱さと痛みを知っておられます。自ら弱さと痛みと死を経験されたからです。それだから、牧者であるのに、「小羊」と呼ばれます。小羊たるイエス・キリストが、わたしたちすべての、世を去った者と世にある者すべての牧者となってくださる。これが第一の約束、いま起こりつつある救い主の活動です。

牧者となられた小羊イエス・キリストの目に見える姿が、この奈良基督教会礼拝堂にあります。洗礼盤の側面に刻まれているのが、傷を受けられた小羊の姿です。

第二に、イエス・キリストは彼らを、わたしたちを、「**命の水の泉へ導いてくださる**」。

わたしたちが^{かわ}渴いていることを牧者キリストはご存じです。

不幸は、わたしたちが、自分が渴いていることを知らない、あるいは認めないことです。けれどもキリストはわたしたちの深いところの渴きをご存じです。わたしたちが命の水によって潤され、生き返ることを必要としていることをご存じです。この方は、わたしたちの渴きを自らご自身の渴きとして、十字架の上で「渴く」と叫ばれました（ヨハネ 19:28）。わたしたちの魂を引き寄せようと渴き求め、自ら渴かれた方が、わたしたちを、「命の水の泉へ導いて」くださいます。

第三に、イエス・キリストはわたしたちの神、彼らの神となって「**彼らの目から涙をことごとく、ぬぐわれる**」

わたしたちの先輩も、わたしたちも、目に見える涙を、あるいは目に見えない涙を流してきました。悲しみの涙、憤りの涙、孤独の涙、絶望の涙……。清い涙も清くない涙もあります。けれども牧者となってくださる小羊キリストは、わたしたちのすべての涙をぬぐってくださる。わたしたちの涙をまことにぬぐうために、この方は人としての地上の生涯において涙を流された。イエスはラザロの墓の前で涙を流されました（ヨハネ 11:35）。そしてすべての人のすべての涙をぬぐい、傷を癒すために、すべての人の傷を受けて自ら傷つき、死なれました。

涙と傷と死を知られた方、言い換えれば水と血をとおって来られた（ヨハネー 5:6）神の小羊イエス・キリストであればこそ、わたしたちの傷を癒し、わたしたちの涙をぬぐうことができます。

いま天の長老が示してくれた救い主の姿と行動はこの三つです。

**「玉座の中央におられる小羊が彼らの牧者となり、
命の水の泉へ導き、
神が彼らの目から涙をことごとく、ぬぐわれる」**

先に天に召された方々とわたしたちは、この牧者にして小羊であるイエス・キリストに守られ、導かれることにおいてつながっており、またこの方を信じ、従うことにおいて連帯しています。

神の小羊なる主イエス・キリストよ、あなたが先に召された人々の牧者となり、またわたしたちの牧者となって、わたしたちすべてを守り導いてください。あなたを信じ、あなたに従わせてください。アーメン